

# 認知戦の理解と、市民としての対抗策

---

市民が情報戦に立ち向かう方法

株式会社ラック  
サイバーグリッドジャパン  
ナショナルセキュリティ研究所  
井上圭



[kei.inoue@lac.co.jp](mailto:kei.inoue@lac.co.jp)

## 井上 圭



kei.inoue@lac.co.jp

株式会社ラック  
サイバー・グリッド・ジャパン  
次世代セキュリティ技術研究所  
兼 ナショナルセキュリティ研究所

非IT企業情報システム部、MSP（Managed Service Provider）、セキュリティコンサルタントなどを経験し、2024年07月にラックに入社。脆弱性管理やセキュリティ運用について研究や講演を行い、確かなテクノロジーで「信じられる社会」を目指す。

### 主な最近の発表

- CodeBlue 2022 Open Talks
- Janog 52
- Internet Week 2023 (CFP, WG6)
- NCA Annual Conference 2023 (CFP)
- OWASP Nagoya Chapter/OWASP 758 Day 2024
- Hardening Designers Conference 2024 Session4
- Internet Week 2024 (CFP, WG6)
- NCA Annual Conference 2024 (CFP, WG1)
- Forkwell Library #82 (WG1)
- OWASP Nagoya Chapter Meeting
- OWASP Kansai Chapter Meeting
- 総関西サイバーセキュリティLT大会
- サイバーセキュリティ勉強会in塩尻
- 三重CS-ISAC
- 他

### 参加団体

- 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA)
  - 社会活動部会
  - 教育部会
    - ✓ ゲーム教育WG、情報セキュリティ教育実証WG、産学連携PJ
- 日本セキュリティオペレーション事業者協議会 (ISOG-J)
  - WG1 “脆弱性トリアーシガイドライン作成のための手引き”
  - WG6 “セキュリティ対応組織の教科書”
  - 脆弱性管理推進チーム リーダー
- 日本シーサート協議会 (NCA)
  - インシデント対応訓練WG
  - 脆弱性管理WG
- 他

### 著書

- セキュリティエンジニアの知識地図 (2025-02)



# Agenda

今回は、安全保障文脈での認知戦についての話をします。認知戦を知り、偽情報にどう私たち市民は対応していくか、を考えます。

1. 認知戦とは何か
2. 認知戦の事例とその影響
3. ウクライナ戦争の認知戦
4. 認知戦に対抗するための教訓
5. 市民がとるべき対策
6. まとめ

## 認知戦の定義

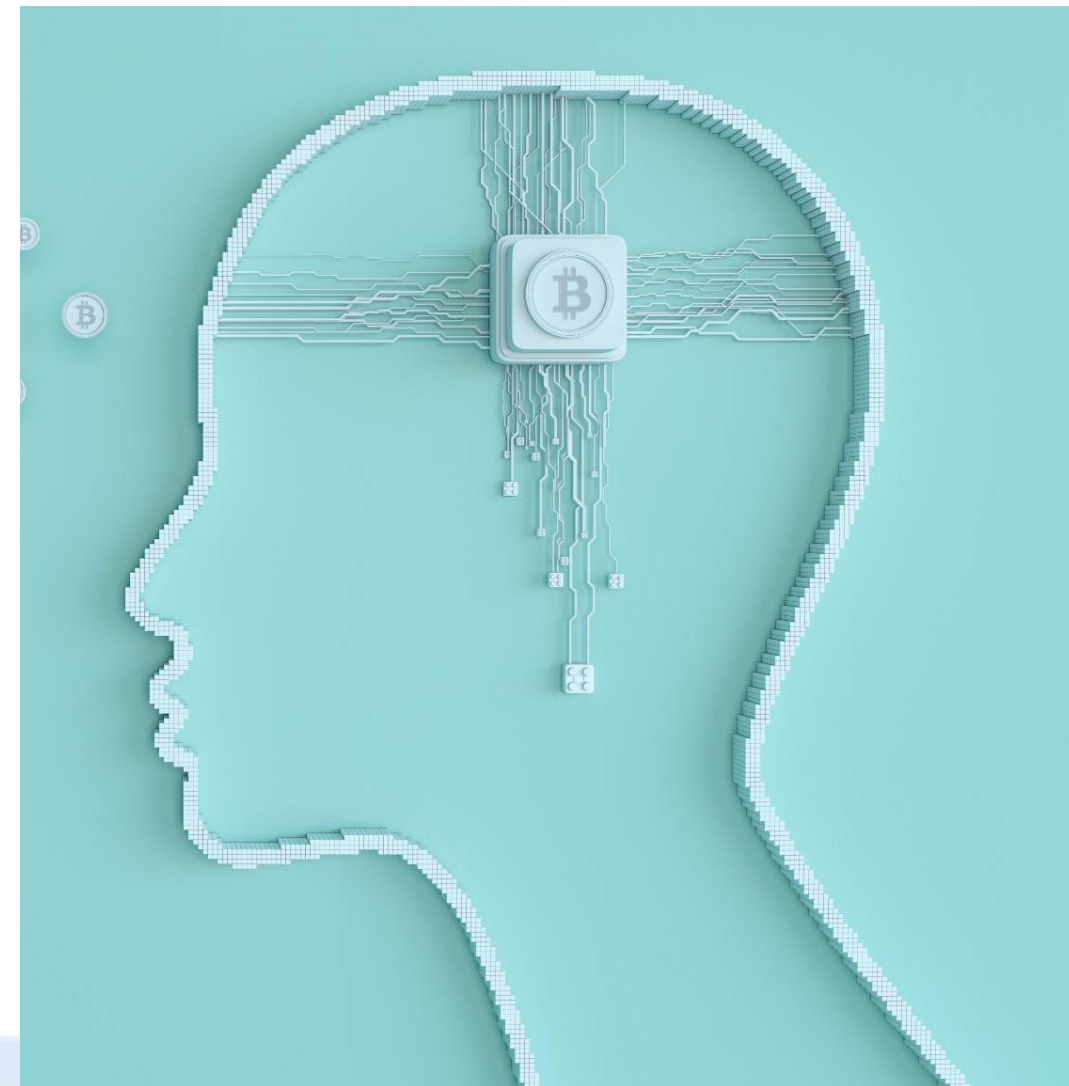
- 認知戦は、情報操作によって相手の認知を変える戦略であり、意図的な混乱を引き起こします。

## 戦略的意図

- 特定の意図をもって行われ、相手の思考や行動に影響を与えることを目的とします。

## 混乱の手法

- 混乱や誤解を引き起こす手法が用いられ、相手の判断を鈍らせます。
  - ✓ **Disinformation**（意図的な誤った情報）
  - ✓ **Misinformation**（無知や誤解での情報）
  - ✓ **Malinformation**（真実を悪用した情報）





### 情報操作の影響

- 特定の国や集団による情報操作は、**社会や政治**に大きな影響を与えています。デマやフェイクニュースが広がることで**混乱が生じる**ことがあります。

### 社会的影響

- 情報戦は公衆の意見や行動に影響を与え、**社会の分断**を引き起こす要因となります。特に選挙期間中に顕著です。

### 政治的影響

- 情報操作は政治的決定にも影響を及ぼし、**政策の変化**や**国際関係の悪化**を引き起こすことがあります。これにより**国家間の緊張**が高まることもあります。



ウクライナ戦争でも認知戦が用いられており、これらに対抗するための研究が進みました。

## 情報精査の重要性

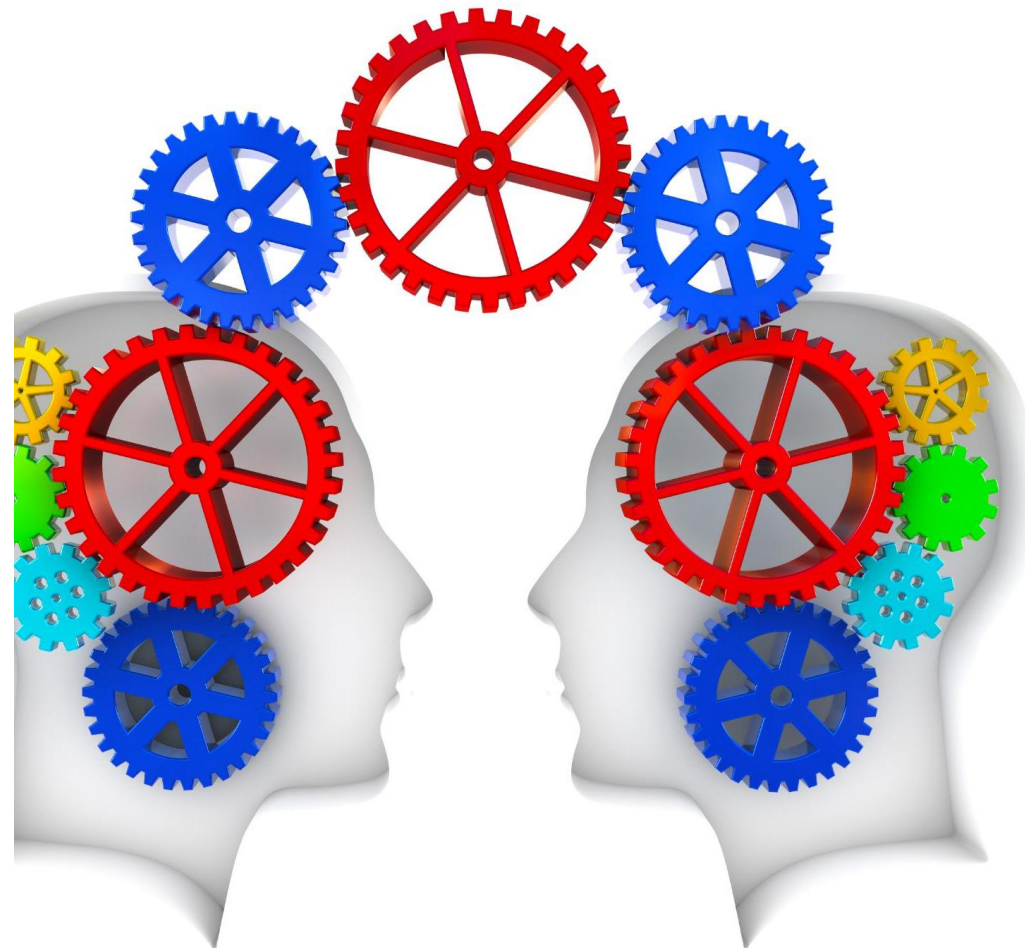
- 情報の精査は、**信頼性**のある情報を見極めるための基本です。正確な判断に欠かせません。

## 信頼できる情報源

- 信頼できる情報源を見極める力を養うことは、効果的な**情報の取り扱い**に不可欠です

## 認知を歪める方法を知る

- 「認知操作・誤情報」の**手法**を理解することで、認知操作の**可能性に気付く**ことができる可能性が高まります。



	代表的な手法	概要	例
1	感情操作	恐怖・怒り・不安などの <b>強い感情</b> を刺激し、理性的な判断を妨げる	危機感をあおる見出し 感情的な映像や音声
2	偽の専門性	信頼できそうな <b>肩書や見た目</b> を使って、誤情報を信じさせる	「医師が言っている」 「元関係者が暴露」
3	偽の因果関係	<b>関係のない事象</b> を因果関係があるように見せる	「ゲームをする人は暴力的になる」 「ワクチンを打ったから死亡した」
4	チェリーピッキング	<b>都合の良い</b> 情報だけを抜き出して提示し、全体像を歪める	「パチンコで10万円勝った」 「前は勝ったから、今回も勝つ」
5	偽の二択	複雑な問題を「AかBか」のように単純化し、 <b>選択を誘導</b> する	「戦争か平和か」（戦うか戦わないか） 「経済か命か」
6	陰謀論	裏で誰かが操作しているというストーリーを提示し、 <b>疑念</b> をあおる	「メディアは政府に操られている」 ディープステート論
7	トロール論法	批判をかわすために、別の問題を持ち出して <b>話を逸らす</b>	「でも、他の国ではもっと酷いことが起きている」
8	偽のコンセンサス	多数の意見である、他の人も同じように考える、という <b>錯覚</b> を持つ	「みんながそう言っている」 「常識だ」

参考

UNESCO: <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000389216>, Harvard Kenned School Misinformation Review <https://misinforeview.hks.harvard.edu/article/global-vaccination-badnews/>, CISA: [https://www.cisa.gov/sites/default/files/publications/tactics-of-disinformation\\_508.pdf](https://www.cisa.gov/sites/default/files/publications/tactics-of-disinformation_508.pdf) etc.



情報戦に巻き込まれないためには、まずは以下のことに気を付ける必要があります。

- 批判的思考を持つ
  - 情報を鵜呑みにせず、「誰が、なぜ、どのように」伝えているかを考える
- 情報源を確認する
  - 一次情報か、専門機関か、出店はあるのか、等をチェックする
- 情報拡散前に一呼吸置く
  - 「この情報は本当に正しいのか？」「誰かを傷つける可能性は無いか？」を自問する
- 感情的反応を抑制する
  - 怒り・不安・恐怖をあおる情報には、冷静に距離を置く





## 認知戦が存在することを知る

- 私たちが日々接する情報の中には、意図的に認知を操作しようとするものが含まれています。
- これは「認知戦」と呼ばれ、国家間の対立や社会的分断を目的として行われることもあります。
- 認知戦は、目に見える戦争ではなく、**私たちの思考や判断に直接影響を与える静かな戦い**です。

## 認知を惑わせる手法を知る

- 「感情操作」「チェリーピッキング」「偽の因果関係」「偽の専門性」などの手法を知ること、**「もしかして…」と気づけるタイミングが増えるはず**です。

現在の社会的環境は、「我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面する」状況です。

情報に惑わされない力は、訓練によって育てることができます。

「考えてから共有する」「出店を確認する」「感情に流されない」、これらの小さな習慣が、私たちの社会を守る大きな力になります。



※本資料は作成時点の情報に基づいており、記載内容は予告なく変更される場合があります。

※本資料に掲載の図は、資料作成用のイメージカットであり、実際とは異なる場合があります。

※本資料は、弊社が提供するサービスや製品などの導入検討のためにご利用いただき、他の目的のためには利用しないようご注意ください。

※ LAC、ラック、JSOC、サイバー救急センターは株式会社ラックの登録商標です。その他記載されている会社名、製品名は一般に各社の商標または登録商標です。